

道徳学習指導案

指導者 川本 美紀子

- 1 日 時 平成 24 年 11 月 19 日 (月)
- 2 学 年 第 1 学年 1 組 19 名 [1 年 1 組教室]
- 3 主 題 名 正直で素直な心 [1 - (4) 正直誠実, 明朗]
- 4 資 料 名 「きんいろのクレヨン」 (出典「1ねんせいのどうとく」文溪堂)

5 主題設定の理由

- 正直で誠実であることは、人間として最も大切なことの一つである。誠実な生き方とは、他人に対することだけでなく、自分自身に対してうそやごまかしがなく、素直になれることである。過ちや失敗はだれにでも起こりうることである。そのときに自己保身的なうそやごまかしは、あくまでも一時しのぎ的なものであり、真の解決には至らない。そればかりか、他者の信頼を失い、自分自身の中に後悔や自責の念、強い良心の呵責等が生じる。それを乗り越えるのが正直な心であり、自分自身に対する真面目さであり、のびのびと過ごそうとする心の明るさである。そのような誠実な生き方を大切にする心を育てていくことが重要である。
 - 本学級の児童は、授業中や休憩時間など、教師が見ていて、自分の間違いが明らかで、ごまかすことができない状況においては、自分の非を素直に認めることができる。しかし、休憩時間に、友だち同士でトラブルになった時は、自分の都合が悪いことは言わずにだまっていたり、友だちのせいにしたりすることもある。アンケートの結果、学級の 90% (17/19 人) の児童は、友達の物を壊したとき、きちんとあやまらなければいけないと思っていることがわかった。悪いことをしたときには、あやまらなければならないという意識は持っているものの、普段の生活の中でのちょっとしたトラブルでは、自分の都合の悪いことはごまかそうとしてしまっている傾向が強い。悪いことをしたらあやまらなければならないという規範意識は持っているものの、正直に言ったときの心地よさや、心の明るさを十分に感じていないのではないかと考える。
 - 本資料は、友だちの金色のクレヨンを、友だちのいない間に使って折ってしまった主人公が、迷いながらも正直にあやまり、友だちが優しく許してくれるという内容である。クレヨンを折ってしまったとき、正直に言うか言わないか迷う主人公の気持ちは、日常生活でだれでも経験したことがあり、十分共感することができると思う。正直に告白したときの気持ちよさをとらえさせることで、誠実に行動することの大切さに気づかせることのできる資料であると考え。
- 指導にあたっては、のぼるの気持ちに寄り添いながら学習を進める。基本発問では、うっかり折ってしまった後、そっと箱にもどしたときの気持ちを話し合い、あやまちをおかしてしまったとき、ついごまかしたくなる気持ちに寄り添わせる。

さらに、とみこに声をかけられたとき、下を向いて返事をしないときの主人公の気持ちを話し合う。悪いことをしたら、謝らなければいけないという気持ちだけではなく、謝るときのこわさや、だまっておきたくなる弱い気持ちに共感させたい。中心発問では、もう一度謝ったときののぼるの気持ちを話し合う。その際、登場人物の様子を劇化し、正直に告白したときの気持ちよさを感じさせながら、問い返しを行い、相手のことを考えて、心からあやまったときの心の明るさに気付かせたい。終末では、教師の子ども時代のエピソードを話し、うそやごまかしをしないで、明るい心で生活しようとする意欲を高めていきたい。

6 準備物

挿絵 お面 ワークシート

7 ねらい

迷いながらも謝った主人公の心情を話し合うことを通して、うそやごまかしをしないで、明るい心で生活しようとする道徳的心情を育てる。

8 本時のポイント

もう一度「ごめんね」と言ったときの言い方を考えさせ、のぼるの気持ちに同化させる。また、謝った場面を劇化させ、教師がとみこ役としてのぼるに問い返ししながら、児童の思いを引き出していく。

9 指導過程

段階	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
導 入	1 24色のクレヨンを見て思ったことを発表する。	○24色もあるクレヨンを見てどう思いますか。 ・使ってみたい。 ・どんな色があるんだろう。	○クレヨンを見せることで、資料への接近を図る。
展 開 前 段	2 折ったクレヨンをそっと箱に戻したときののぼるの気持ちを話し合う。	○クレヨンを折ってしまったあと、そっと箱にもどしたのぼるは、どんな気持ちだったでしょう。 ・やってしまった。 ・どうしよう。 ・もどしていたらわからないだろう。 ・とみこさん、怒るかな。 ・謝らないと	○動作化をさせ、とっさにかくそうとしたのぼるの気持ちを考えさせる。
	3 下を向いて返事をしなかった	○下を向いて返事をしなかったときののぼるはどんなことを考えていたでしょう。	○ のぼるの心の揺れをとらえやすいよう

	<p>ときののぼるの気持ちを話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・このまま黙っていてもわからないかも。 ・ばれたらどうしよう。 ・悪いことをしたから謝ろうかな。でも、言ったらとみこさんに責められるから言えないな。 ・とみこさんが悲しむから、謝ろうかな。でも、言ったらとみこさんに嫌われてしまうかな。 	<p>に板書する。</p> <p>○ 話し合いでは、迷っている理由がわかるように問い返す。</p>
	<p>4 もう一度「ごめんね」とあやまったときののぼるの気持ちを話し合う。</p>	<p>◎もう一度「ごめんね」とあやまったとき、のぼるはどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怒らなくてよかった。 ・ゆるしてくれてうれしい。ありがとう ・言ってスッキリしたな。 ・謝ってほっとした。 ・本当に悪かったな。謝れてよかった。 ・すぐに謝るほうが気持ちがいいな。 	<p>○ 2度目の「ごめんね」をどのように言ったか考えさせることでのぼるの気持ちによりそわせる。</p> <p>○ 一度目の「ごめんね」と二度目の「ごめんね」の違いを問い、なぜもう一度あやまったのか考えさせる。</p> <p>○ 最後の場面を劇化し、教師がとみこになって問い返しながら深める。</p>
展開後段	<p>5 これまでの自分をふり返る。</p>	<p>○正直に言ってよかったことがありますか。そのときはどんな気持ちでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちに借りた本を破ってしまったけれど、正直に謝って許してもらえた。謝ってほっとしたから言ってよかったなと思った。 	<p>○ 迷ったけれど正直に言って明るい気持ちになったことを想起させ、「他者視点」「自己モニター」を意識してワークシートに書かせる。</p>
終末	<p>6 教師の説話を聞く。</p>		<p>○ 児童の経験に重ねながら正直に言うと明るい気持ちになった経験を話す。</p>